

第1章 「教育に活用されている馬」

教育

人と動物が共存する社会をめざして

帯広畜産大学

地域に根ざした社会貢献に繋がる取り組み



活動の概要

帯広畜産大学は、馬産地でありかつ歴史的にも馬の生産や活用に深い関わりのある地域において、古くから馬の獣医学や畜産領域の教育や研究活動を行っている大学である。

国内唯一の国立農学系単科大学として共同獣医学課程および畜産科学課程があり、各学年 250 名ほどの学生を有している。

大学の新生徒全員が、乗馬や馬の管理を実際に体験することで、馬と人との関係について理解する機会が設けられていることも、大学の特色の1つとなっている。

馬を効果的に教育研究に利用するために、馬介在活動室を設置し、さらに、地域に対する様々な社会貢献活動も行っている。

○馬介在活動室

平成 26 年に十勝地方に根付く馬文化を背景として、「人間と動物（ウマ）との関係を学ぶ教育機能を強化して、動物介在による福祉、医療、教育分野及び動物関連産業で活躍できる人材を育成することにより、人間と動物が共存できる豊かで潤いのある社会づくりに貢献すること」を目的として、馬介在活動室が設置された。

馬を活用した教育研究を充実させること、馬で地域の福祉・教育に貢献すること、馬の研究・利用の拠点をめざし貢献することを目的として、現

在は、教育や社会貢献および学生活動に利用される馬と教育研究にのみ利用される馬の計 23 頭の管理を行っている。

馬介在活動室の主な業務は、

- 1) 馬介在の教育科目の支援及び教育プログラムの企画立案に関すること
 - 2) 馬に係る獣医畜産分野の研究支援及び学際領域の研究推進に関すること
 - 3) 帯広畜産大学の学生又は職員が参加する馬介在活動の社会貢献活動に関すること
 - 4) 畜産フィールド科学センターが保有する馬の管理に関すること
 - 5) 帯広畜産大学の学生又は職員の馬の利用に関すること
- となっている。



家畜による動物介在活動の拠点

馬介在活動室では、学外機関として、帯広市や地域の医療や福祉組織から協力を得ている。また、馬を介した青少年教育活動を行う公益財団法人ハーモニセンターから人材の派遣も受けている。学内の帯広畜産大学学生協力団体の、「馬術部」「うまぶ」「RDA ちくだい」とも連携・協力して活動を行っている。

○地域・社会貢献活動

帯広畜産大学では、帯広市と包括連携協定を締結し、「馬のいるまち帯広」のテーマをもとに、市民を対象に「屋外において馬とふれあい、馬に親しみを持ってもらい、運動による健康増進を目指すとともに、乗馬経験を通じた生活の質向上を支援すること」を目的として「障がい者乗馬体験」や「適応指導教室ふれあい・乗馬体験」を実施している。馬との触れ合い体験（ブラッシング、エサやり）や乗馬体験などを実施し、平成26年度には12回実施され、延67名の参加があった。

これらの活動の周知は、帯広市障害福祉課からの広報の他、障がい児童福祉施設や障がい者就労支援施設などへの募集要項の送付などで行われている。

あわせて、障がい者乗馬に関する技術や知識を向上させることや理解を促進するために、障がい者乗馬に関するボランティアに対する講習会も行っている。



市民が馬と身近にふれあうことができる



キャンパス内の馬場

○ちくだい馬フォーラム

帯広畜産大学では、人間と動物との関係を学ぶ教育機能を強化して、動物介在による福祉、医療、教育分野及び動物関連産業で活躍できる人材を育成することにより、人間と動物が共存する豊かで潤いのある社会づくりに貢献するとともに、学生などと馬が触れ合う機会を拡大させるため、「人と馬の絆による社会貢献事業」を推進している。その一つとして「ちくだい馬フォーラム」を開催している。



第1章 「教育に活用されている馬」

ちくだい馬フォーラムは、子どもから大人まで幅広い市民に馬とのふれあいを提供し、帯広十勝の風土や歴史と馬との関わり、馬と人間との関係について理解を促進することを目的としており、大学を中心に企画され、学生、教職員が一体となり事業を遂行する、市民を対象としたイベントである。

馬に関する学術講演会、「馬の学校」、「馬の標本展示」など馬のことを深く理解することができる展示・解説コーナー、一般市民の体験乗馬、馬術部や学生サークルによる馬術ショーや流鏑馬の披露、公益財団法人ハーモニイセンターの子供たちによる軽乗演技、馬車運行、地元の食材を使った屋台（豚汁、豚丼、ビーフステーキ、帯広畜産大学名物の商品）など様々な企画が実施されている。

週末の土曜日に開催され、多くの市民が来場し、規模と熱心に取り組む様子は、地域に根ざした大学ならではの事業といえる。

本フォーラムは、帯広や十勝地方の良さや特徴をアピールする目玉の一つであり、教育・研究機関である大学が積極的に地域の発展に貢献している点の意義は大きい。また、学生にとっても、社会へ貢献することへの意識を高め、自己研鑽の機会となっており、学生の成長を促す機会として大切である。



ちくだい馬フォーラムでの流鏑馬演技の様子



ちくだい馬フォーラムでの体験乗馬の様子



馬車運行（帯広市の協力）

○学生主体による活動

帯広畜産大学では、馬介在活動室の協力団体にもなっている、「馬術部」「うまぶ」「RDA ちくだい」の3つの馬と関わる学生組織がある。

「馬術部」

馬術部は、大学が創立された昭和16年に発足し、帯広畜産大学で一番の古くからある部活動である。全日本学生馬術大会で優勝したこともある伝統を持っている。また、学内には他大学に見ることのできない野外騎乗用のコースも整備されている。

馬は大学から貸与されており、学生がその飼養管理をおこない部活動を行っている。

「うまぶ」

うまぶは、馬術部以外の乗馬のサークルとして、

流蹄馬、軽乗、ちびっこ乗馬会などの活動や企画をおこない、馬の関わる伝統文化やスポーツライディング、一般の方への馬事普及活動などを行っている。

「RDA ちくだい」

学生のサークル活動として、学生が主体となって障がい者乗馬を実施する組織である。

帯広市民の身体や心に様々な障がいのある方々に乗馬を経験していただくことを目的とし、RDA Japan の準ユニットとして登録されている。

週末を利用し通年で定期レッスンを実施している。小中学生が対象で、毎週土曜日の午前中に、「楽しく乗馬」をモットーに参加者にあわせたレッスンを行っている。馬場内だけではなく、学内の白樺並木通りで外乗を行うなどの楽しめる工夫をしている。

年に2回の乗馬大会も実施しており、保護者や参加者自身が、成長の成果を確認する機会を提供している。



学内の馬場（馬術部等が練習に取り組む）

背景(地域連携、展望等)

帯広畜産大学のある十勝地方は、日本における馬産地の1つである。世界で唯一の「ばんえい競

馬」があり、そこで活躍する重挽馬の多くが生産されている。また、馬の生産のみならず、乗馬や馬術競技の他、広大で豊かな自然の中で行う外乗やトレッキング、エンデュランス競技など様々な馬と関わるスポーツやレクリエーションが存在し、馬が人の生活に溶け込んでいる地域である。

また、帯広畜産大学は、昭和16年に十勝地方が馬匹の生産育成に適している地域であることから設立された「帯広高等獣医学校」を前身としている。当時は戦時中であり、優秀な軍馬を育成することが戦いの勝敗に大きな影響を与えるものとして、軍馬および獣医師の養成が求められる時代背景もあった。このように、馬と深く関わる地域性がある。

戦後、軍馬や使役馬としての役割がなくなったことによる馬の存在意義の低下により、日本では馬の持つ役割がなくなるとともに馬と関わる文化が急速に失われてきた。

現在、帯広畜産大学で、このような形で効率的に馬に関する教育研究が実施されるだけでなく、社会貢献活動や事業に取り組む理念とスタイルは他に例のないものであり、大学での馬の活用方法のひとつとして先進的な例として位置づけられる。

さらに、馬を介在させた健康社会への取り組みは福祉や教育、研究面で有意義であることから、この分野における拠点となるべく成長が期待される。

.....
 〒080-8555 北海道帯広市稲田町西2線11番地
 (URL) <http://www.obihiro.ac.jp/>
 (TEL) 0155-49-5216